

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 796 号	氏名	高村 恒人
学位審査委員	主査 蒔田 直昌 副査 森内 浩幸 副査 松尾 孝之		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 対人コミュニケーション能力は、生後 30 か月までに形成される母子の愛着関係と脳活動の発達が大きく関与しているが、この脳活動が生後 30 か月を過ぎた幼児と思春期にどのような変化をするかを解明しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 タナー思春期分類の異なる 3 群の男子に対して、実母と他人の母の無表情・笑顔の静止画像を順に見せ、脳の局所酸化ヘモグロビン濃度の変化を近赤外分光法(NIRS)法で測定し解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、プレ思春期では実母条件で前頭前皮質右腹側部の活動が増加し、これは生後 30 か月を過ぎた幼児の反応に類似するものだった。一方、思春期では前頭前皮質左腹側部の活動の方が増加し、ポスト思春期には活動の変化は見られなかった。すなわち、思春期において母親に対する愛着関係に特異的な脳活動が大きく変化することが判明した。</p> <p>以上のように本論文は脳科学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			